

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は105～106円台での推移か

[9月7日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)			8 月 31 日～ 9 月 4 日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	105.46	106.55(3)	105.30(31)	106.17	+0.80
ユーロ・ドル	1.1899	1.2011(1)	1.1789(3)	1.1842	-0.0061
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値		前週末比		
日経平均株価	23,205.43	+322.78	日本10年債利回り	0.041	-0.018
ダウ平均株価	28,292.73	-361.14	米10年債利回り	0.635	-0.086
=====					

<来週の主要経済統計等>

7日 中国8月貿易収支

独7月鉱工業生産指数

レイバーデーで米国は休場

8日 日本7月勤労者世帯家計調査

日本第2四半期国内総生産(GDP)2次速報、日本7月経常収支

独7月貿易収支、独7月経常収支

ユーロ圏第2四半期域内総生産(GDP)確報値

9日 中国8月消費者物価指数、中国8月生産者物価指数

スイス8月雇用統計

米MBA住宅ローン申請件数

カナダ銀行(BOC)政策金利

10日 日本7月機械受注高

欧州中央銀行(ECB)政策金利

米8月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数

11日 英7月鉱工業生産指数、英7月製造業生産指数、英7月貿易収支

独8月消費者物価指数

米8月消費者物価指数

米8月財政収支

【前回のレビュー】米国では注目度の高い経済指標の発表が相次ぎ、米国経済の着実な回復が続くようだと、ドル円にはサポート要因になるとみられる。ただ、日本の政局不透明感もあり、大幅な上昇にはつながりにくく、ドル円は106円台を中心とするもみ合いとなりそうとした。

【ドル円の戻りは一服】

9月1日にユーロドルは1.2011まで上昇して、2018年5月2日以来、2年4か月ぶりの高値圏まで上昇した。また、この日にドル・インデックスは91.746まで低下するなど、ドル売りの動きを見せた。ユーロドルの1.20ドル乗せの後は節目達成感からユーロ売りドル買いの動きに傾き、ユーロドルは下げに転じるとともにドル・インデックスは上昇に転じた。

8月25日の米商品先物取引委員会(CFTC)建玉明細では、CMEの通貨先物市場でユーロの対ドルでの大口投機玉の買い越しは2万1752枚と過去最高水準となった。ユーロドルは節目の1.20ドルを超えたことや欧州中央銀行(ECB)当局者によるユーロ高のけん制発言などを背景に1.18ドル割れまで調整が進むこととなった。

対ユーロでのドルの買い戻しの動きや堅調な米国株を受けての円売りの動きなどを背景にドル円は堅調な動きを見せた。ドル円は8月28日の安倍首相の辞任報道で107円手前の水準から105.20円前後まで急落、その後はドル買い円売りの動きから、3日のロンドン時間には106円台半ばまで上昇した。ただ、3日のNY市場では米国株が急落したことで、106円台前半まで軟化している。

ジャクソンホールでの米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の講演で、米国では今後も緩やかな金融政策の継続が見込まれている。FRB当局者からも緩やかな金融政策継続への発言が相次いでおり、2日にNY連銀のウィリアムズ総裁は緩やかな2%超のインフレを容認する新たな枠組みはFRBの物価安定と雇用の最大化という二大責務の達成を支援すると述べている。米国での金融緩和策の長期化見通しは米国株のサポート要因となり、円売りの動きにつながりやすい。

1日に発表された8月の米ISM非製造業景況指数は56.0となり、大方の事前予想の54.8を上回るとともに好不況の境目である50を3か月連続で上回り、1年9か月ぶりの高水準となった。新規受注や生産は60を超える強さを見せるなど堅調さを維持している。3日に発表された8月の米ISM非製造業景況指数は56.9となり、事前予想の57.0や前回の58.1を下回ったものの、おおむね想定範囲内となった。

堅調な米経済指標は株高の一因となっている。ただ、米10年物国債利回りは米国での金融緩和の長期化観測もあり、8月27日の0.754%近辺から9月3日には0.636%前後に低下している。米長期金利の低下により、活発なドル買いの動きは見込みにくい状況にある。

ドルはこれまでに売られた反動から買い戻しの動きとなっているものの、買い戻し一巡後は米長期金利が上昇しにくいことで、ドル高の流れが一服するとみられる。ドル円は106円台半ばまで一時戻したものの、107円をしっかりと超えて上昇するほどの強さはなく、105～106円台を中心とするもみ合いが続きそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、105.25～107.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本7月勤労者世帯家計調査、日本第2四半期国内総生産（GDP）2次速報、日本7月経常収支、9日に米MBA住宅ローン申請件数、10日に日本7月機械受注高、米8月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、11日に米8月消費者物価指数、米8月財政収支などがある。

【ユーロドルは調整一巡後に再び上昇か】

ユーロドルは9月1日に1.20ドル台に乗せた後は節目達成感から下げに転じている。1日にはECBのレーン専務理事が「ECBは為替レートを目標にしていないが、ユーロドルのレートは重要問題」と述べており、1.20ドル超ではこうしたユーロ高をけん制する発言も出てくるとみられる。

ユーロドルの値動きを見ると、8月以降は高値から200ポイント前後の調整後に再び上昇に転じる動きを繰り返している。1.20ドルの節目達成感から200ポイント以上の深押を見せる可能性もあるものの、これまでに高値と安値を切り上げて推移してきており、調整が一巡するとユーロドルは再び上昇に転じるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1700～1.2100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日に中国8月貿易収支、独7月鉱工業生産指数、8日に独7月貿易収支、独7月経常収支、ユーロ圏第2四半期域内総生産（GDP）確報値、9日に中国8月消費者物価指数、中国8月生産者物価指数、スイス8月雇用統計、カナダ銀行（BOC）政策金利、10日に欧州中央銀行（ECB）政策金利、11日に英7月鉱工業生産指数、英7月製造業生産指数、英7月貿易収支、独8月消費者物価指数などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。